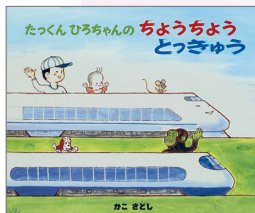


著作権保護コンテンツ

かこさとし

『サザンちゃんのおともだち』
1,000円（偕成社・1973）

サザンちゃんは毎日遠い学校まで歩いて通っています。学校から帰ると、その途中で会ういろいろな動物たちに勉強を教えています。



『たっくん ひろちゃんの ちょうちょうとっきゅう』
1,200円（偕成社・1997）

たっくんが電車遊びをしていると、台所列車ことと号、お風呂場列車じゃぶじゃぶ号、飛行機列車びゅんびゅん号が加わります。

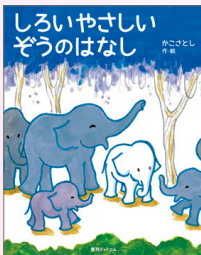
『マトリョーシカちゃん』
原作／ヴェ・ヴィクトロフ、イ・ペロポーリスカヤ
800円（福音館書店・1992）

マトリョーシカちゃんは家にお友だちを招待することにしました。やがてやってきた4人のお友だちは、マトリョーシカちゃんひとりしかないことに怒りだしますが……。



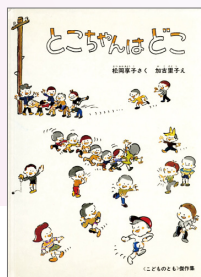
『しろいやさしい ぞうのはなし』
1,600円（復刊ドットコム・2016）
※初版は『ぞうのむらの そんちょうさん』（偕成社・1985）

体が弱く、ハンデをもった白い子ゾウのシロちゃん。ある日、ゾウたちの村が火に包まれてしまいます。逃げおくれたシロちゃんを守るため、母ゾウが命がけでしたことは……。



『とこちゃんはどこ』
作／松岡享子
800円（福音館書店・1970）

とこちゃんは赤い帽子がお気に入り、どこへ行くにもかぶっています。町中、動物園、海辺、さあ、とこちゃんはどこでしょう？



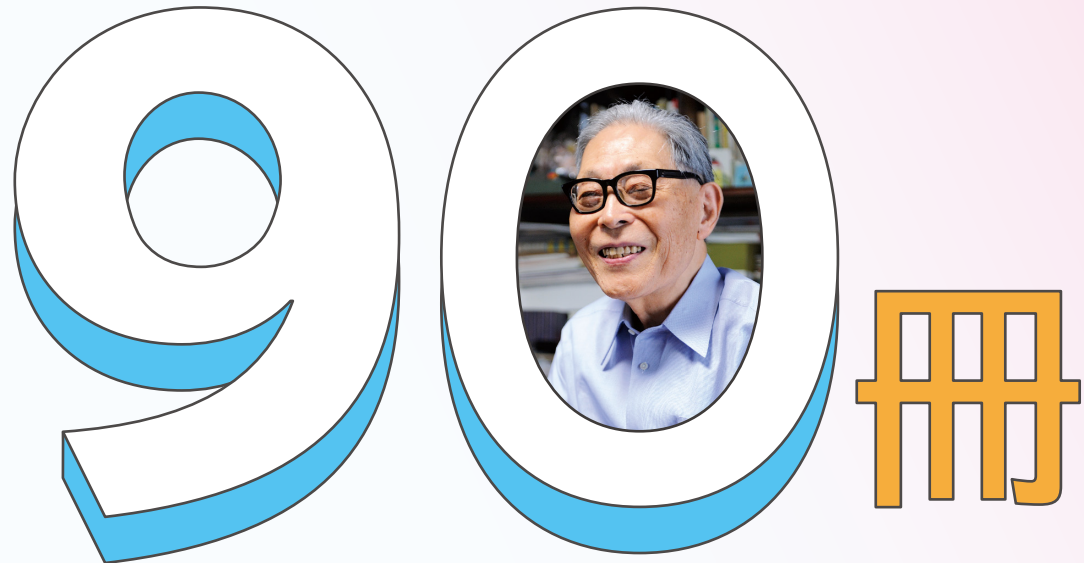
『だるまちゃん・りんごんちゃん』
1,300円（瑞雲舎・2013）
※初版はエトコ・ワールド・2003

だるまちゃんはりんごんちゃんに誘われて、りんごん祭りにやってきました。長野県飯田市で行われた人形劇フェスタでの人形劇が、絵本になりました。



かこさんの筆立て。絵筆が入れてある空き缶には似顔絵が。

かこさとしさんが、今年3月に90歳を迎えられます。これまでに出された本の中から、90歳にちなんで90冊を選び、7つのジャンルに分けてご紹介します。さらに、かこさとしさんご自身からは、ジャンルごとにコメントを寄せていただきました。でも多くのファンを代表して、鈴木のりたけさんと幅允孝さんからは、メッセージをいただきました。ばし、かこさとしワールドをお楽しみください。



『からすのパンやさん』
1,000円（偕成社・1973）

いずみが森にからすのパンやさんがあります。オモチちゃん、レモンちゃん、リンゴちゃん、チョコちゃんの4羽の赤ちゃんが生まれました。



創作物語

1950年から20年ほど、私は工場労働者の居住地域で子ども会をしていました。毎日晒、来るのは30人ほどで、集まるまでに昔ばなしや紙芝居を見せ、その後、外遊びをしていました。

この子どもたちが示す反応によって、子どもの真の感覚、反応、当否、思考を知り、教えられていきました。

彼らが示してくれた判断ほど、正しく適切なものはなかったのも、その教えのまま、次々と物語や紙芝居をつくってともに楽しんでいたことが、慧眼な出版社の目にとまり、次々の依頼によって書き綴ってきました。その原則基本は今も変わらず、子どもたちが教示してくれたのに従ってきたまでです。（かこさとし）



『だるまちゃん とてんぐちゃん』
800円（福音館書店・1967）

だるまちゃんは、友だちのてんぐちゃんの持ち物がほしくてたまりません。変わった形の帽子、大きなうちわ。どうしたら手に入るでしょう。



『だるまちゃん かみなりちゃん』
800円（福音館書店・1968）

だるまちゃんが外へ出ると、びかびか、ごろごろ、がらがら、どしんとかみなりちゃんが落ちてきました。泣いているかみなりちゃんをなぐさめると……。

『からすのおかしやさん』
1,100円（偕成社・2013）

からすのパンやさんの4羽の子どもたちが大きくなりました。ある日、お父さんとお母さんが出かけ、4羽で店番することになりました。



『からすのパンやさん』40周年の年に続編シリーズが4冊同時刊行。



『どろぼうがっこう』
1,000円（偕成社・1973）

どろぼう学校では、生徒たちが早くいばん悪いどろぼうになるように勉強しています。明日は遠足。集合は夜の10時ですって？



『どろぼうがっこう ぜんいんだつこく』
1,100円（偕成社・2013）

全員が牢屋に入れられてしまったどろぼう学校の面々は、ついに脱獄を計画します。ところが実行当日、思わぬ事態が起こって……。

かこさんは、青い目の父、黒い目の母を持つ、アメリカの茶色の目の少女（当時5歳）と20年の時空を超え文通。少女からは昨年、大学卒業式での家族写真と、漢字混じりの日本語の手紙が送られてきました。

著作権保護コンテンツ

特集

子どもと一緒に
楽しみたい

2015年の 絵本を振り返る

2015年もたくさんの絵本が出版されました。昨年に引き続き、東京子ども図書館の張替恵子さん、児童書専門店の店主、越高一夫さん、絵本の編集者・書評家のほそえさちよさんの3人に、心に残った絵本、子どもたちと一緒に楽しみたい絵本をあげていただきました。読者のみなさんからいただいたアンケート集計であがってきた絵本も紹介しています。また、後半では2015年に亡くなられた絵本作家の方たちを追悼します。



『てんじつき さわるえほん
さわるめいろ2』

作／村山純子

1,900円（小学館）

目の見えない子、見える子がともに楽しめるように工夫を凝らした点字つきの迷路絵本。円や三角などの連続模様に沿った点線を指でたどり、ゴールをめざす趣向です。印刷した1枚の厚紙をたたんだ蛇腹式製本でコストを抑制。視覚障がい者や編集者らが共同開発した成果です。



『みんなでつくる1本の辞書』

文／飯田朝子 絵／寄藤文平

1,300円（福音館書店）

棒も電車も柔道の勝負も映画も「1本」と数えるのはなぜ？ 留学生に尋ねられた言語学者が5年かけて集めた364の使用例を紹介。奈良時代からの歴史も織り交ぜ、何げなく使っている助数詞のおもしろさを伝えます。ページいっぱいにちりばめられたコミカルなイラストが楽しい。



『せいめいのれきし 改訂版
地球上にせいめいがうまれた
ときからいままでのおはなし』

文・絵／バージニア・リー・パートン
訳／いしいももこ 監修／まなべまこと
1,700円（岩波書店）

46億年前に、太陽の周りを巡る惑星のひとつとして地球が誕生。海中で育まれた生物が進化していくさまを、劇場の舞台のように眺めることができます。1962年刊の米オリジナル版に、米国と日本の学者が新知見を加えた半世紀ぶりの改訂。壮大な生命のドラマを堪能できます。



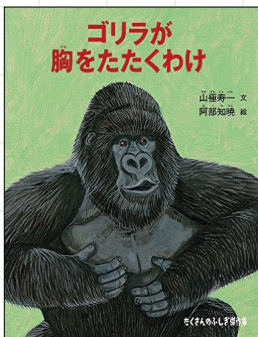
『かき氷 天然水をつくる』

写真／細島雅代

文／伊地知英信

1,600円（岩崎書店）

埼玉県長瀬で3代続く阿佐美冷蔵の伝統の氷づくりを見せる写真絵本。冬、山すその「氷池」に伏流水をため、落ち葉の掃除などをしながら氷が厚くなるのを待ちます。切り出した氷は氷室で保存、夏にはふんわり削ってかき氷に。天然氷の美しさと和やかな家族の営みが印象的。



『ゴリラが胸をたたくわけ』

文／山極寿一

絵／阿部知曉

1,300円（福音館書店）

ゴリラが両手で胸をたたくドラミングは、戦いの宣言？ アフリカ熱帯雨林で観察を続ける研究者が、凶暴なイメージを覆す新説を平易に紹介。世界中を旅してゴリラを描き続ける画家が、仲間に気持ちを保つために、操縦席での執筆や時代背景を凝った画面構成で伝え、隅々まで興味を誘います。



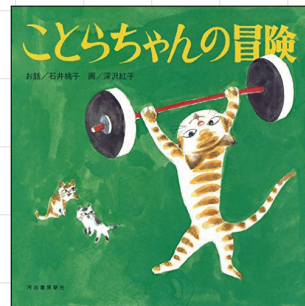
『飛行士と星の王子さま
サン＝テグジュペリの生涯』

文・絵／ビーター・シス

訳／原田 勝

1,700円（徳間書店）

『星の王子さま』の作家の伝記絵本。1900年、仏・リヨン生まれの少年は播磨期にあった飛行機に憧れ、長じて郵便飛行士としてアフリカや南米の空を飛びます。アンデルセン賞画家の細密な絵は、操縦席での執筆や時代背景を凝った画面構成で伝え、隅々まで興味を誘います。



『ことらちゃんの冒険』

お話／石井桃子 画／深沢紅子

1,500円（河出書房新社）

トラに似た子ネコのことらちゃんは、トラになんたくて、夜、動物園に逃げ込み、トラのお乳を飲ませてもらうことに成功……。思わずクスツと笑ってしまう、ことらちゃんの冒険小説8つ。4コマ漫画のような絵が品よく調和しています。1971年初版の幻の絵本、久々の新装復刊。



『子どものための
ラ・フォンテーヌのおはなし』

再話／マーガレット・ワイス・ブラウン

絵／アンドレ・エレ 訳／あべきみこ

1,400円（こぐま社）

「コオロギとアリ」などイソップを下敷きにした17世紀仏詩人の寓話に、20世紀初頭、同国の画家が絵をつけた大型絵本。米作家が散文で再話した米国版から13話を選んで邦訳。哀感を含む教訓話と平面的で簡素な絵とが共鳴し、奥行きのある詩的な世界が立ち上がります。



『トヤのひっこし』

文／イチノロブ・ガンバートル

絵／パーサンスレン・ボロルマー

訳／津田紀子 1,500円（福音館書店）

モンゴル草原に生きる遊牧民は、ヒツジやヤギなどの家畜が草を食べつくさないよう季節ごとに移動します。その営みを少女トヤの目を通して描いています。家族総出で荷をつくり、ラクダにのせ出発。天候の急変やオオカミの脅威……丹念な筆致を、探し絵のように楽しめます。当地出身の夫妻による合作。



『人形絵本 まんまるパン ロシア民話』

人形／Yoko-Bon 訳／かたやまふえ

1,500円（群像社）

まんまるパンが窓から外へ飛び出しました。どんどん転がり、オオカミやクマから逃げ出して……。おなじみのロシア民話を題材にした懐かしい味わいの人形絵本。場面ごとに人形にポーズをつけて撮影。民族調の衣装や小道具など、丁寧なつくりで、素朴なぬくもりが伝わります。



東京子ども図書館 張替恵子さんの10冊

長く愛読されてきた作品が、次の世代に伝えられていき、その遺伝子を引き継いだ作家や編集者が新しい作品を創る

まとめ

親子のふれあいから戦争、妖怪まで話題の絵本がさまざまありましたが、悲しみ、怒り、恐怖など感情や感覚に訴えかけるものが多かったように思います。子どもの日常生活にさりげなく寄り添ったものは少なく、そのような作品の素朴な味がきわだちました。また、特にうれしかったのは、半世紀以上親しまれてきた『せいめいのれきし』の改訂版刊行。近年の研究成果に基づき、鳥類が恐竜の子孫であるという説や白亜紀末期の大絶滅の原因が明記されたほか、各所に変更があります。旧版と比べつつ眺めるのも一興です。

読みかかせの活動を通して、長く愛読されてきた作品が次の世代に伝えられていくとともに、その遺伝子を引き継いだ作家や編集者が新しい作品をつくるという循環がさらに促進されることを望みます。学習を意図した知識絵本や図鑑の出版も引き続き活発でした。総じて情報を詰め込みすぎの感がありましたが、斬新なテーマと表現で軽やかに興味を誘う意欲作が心に残りました。

はりかえ・けいこ

東京子ども図書館理事。日野市立図書館勤務の1993年から東京子ども図書館勤務。ブックリストの編集や書評に携わるほか全国各地でブックトークやストーリーテリングの研修講師として指導にあたる。訳書に『図書館に児童室ができた日』（徳間書店）など。

今号の注目 『いちごちゃん』『ばななちゃん』『みかんちゃん』 ぎゅうぎゅうに詰まった箱からみかんちゃんが出てきました。ばななちゃんはぐうぐう寝ています。いちごちゃんはみんなで輪になってグルグル回っています。みんなどこに行くのかな？ それぞれにかわいいボードブックです。 作者にお話を伺いました 『ちいさなやさいえほん』に続いて『ちいさなくだものえほん』をつくりました。いろいろな赤ちゃん絵本がありますが、人生のほんの初めに出合う絵本、だからこそ、開いたときの「うれしい!」を大切にしようと思いました。私は子どものころから本が大好きでした。きっと幼いころ、開いた絵本に「うれしい!」を発見したのだと思います。幼い子どもたちに、小さなくだものたちがうれしさをたくさん運んでくれますように。 (ひろかわさえこさん) 作／ひろかわさえこ 各600円(偕成社)		
『どうろこうじのくるま まえとうしろ どんなくなるま?①』 ローラー式油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザーなど、道路工事に使われる車を前、後ろ、横から紹介。「バケットはおおきなつめでつちやどろをはる」など細かい部分の説明も加わり働く人たちの様子もわかります。 作／こわせもりやす 1,200円(偕成社)	『あるひ、いつものがくどうで。』 「学童」は学校が終わってからうちに帰るまでの時間をみんなで過ごす場所です。学年に関係なく遊んだりケンカをしたりしながら、それぞれが成長していきます。頼りになる指導員さんも親たちも見守っています。「学童」の様子を見てみましょう。 作／サトシン 絵／ドーリー 1,300円(えほんの杜)	『牙なしゾウのレマ』 東アフリカ・ケニア共和国のマサイマラ国立保護区。この森で生まれたレマは、大勢の家族に見守られて、つらい体験も乗り越えて立派なゾウになりました。アフリカゾウが直面する危機や生態を知ってもらうため、この本はできました。 文／滝田明日香 絵／小林絵里子 協力／NPO法人 アフリカゾウの涙 1,500円(NHK出版)
『あなに』 ひろしはしろうを誘ってキャッチボールを始めました。妹が来ても、お母さんが来ても、友だちが来ても、ふたりはひたすらキャッチボールを続けます。やがて、しろうが後ろにそらせたボールは工事中の穴に落ちてしまいます。 作／長谷川集平 1,600円(解放出版社)	『いちばんのなかよしさん』 ボール投げをしたり、追いかけてこをしたらもうふたりは仲よしさん。でもある日、いちばんの仲よしさんが遠くへ行っちゃったので探しに行くことになりました。川を越え、山を越え、薄暗い森の先にはお花畑がありました。仲よしさんはどこ？ 作／エリック・カール 訳／アーサー・ビナード 1,400円(偕成社)	『ママ なんサイ?』 「ねーママなんさい?」。必ずされるこの質問に、いかに切り返すかが、ママの腕の見せどころ。天才、山菜、焦げ臭いまで登場します。恥ずかしいから言いたくないけど、食卓でこっそり耳打ちするママでした。 文／越智あやこ 絵／丸山誠司 1,300円(絵本館)
『だれのもようかな? はじめてであう いきものの ふしぎ』 しましま、てんてん、動物たちの見慣れたつморりの模様も、よ〜く見ると、今まで気づかなかった表情があらわれます。親子で同じ模様もあれば、まったく違う場合もあり、クイズに答えるように、写真絵本の醍醐味を楽しんでください。 編／ネイチャー&サイエンス 1,300円(河出書房新社)	『手話ではなそう しゅわしゅわ村のだじゃれ大会』 さてさてなんの行列? しゅわしゅわ村のある日のできごとです。並んでいる動物たちをだじゃれと手話で紹介。ページをめくる手がついた手話の形になってしまいます。楽しく読みながら遊びながら、いつの間にか手話が覚えられるでしょう。 作・絵／くせさなえ 1,500円(偕成社)	『とおいほしでも』 お父さんとぼくの会話で繰り広げられる世界です。地球とふたごの星をひきあいに出しながら、「なんにもかもがそっくりにおきているはずだ」と、絶滅した生きもの、自然の大切さ、戦争の恐ろしさなどを教えていきます。 文／内田麟太郎 絵／岡山伸也 1,300円(絵本塾出版)

『ぺこりん ばん!』 折りたたまれた部分を起こすと、「ぺこりん」とおじぎをしていたクマさんが、「ばん!」と大きな顔を見せてくれました。楽しいあいさつは、カバさん、ウサギさん、シマウマさんにライオンさんと続きます。厚紙仕様の赤ちゃんにもやさしい仕掛けです。 作／わだことみ 絵／冬野いちこ 850円(岩崎書店)	『ここで土になる』 ダム建設の計画が持ち上がった熊本県五木村では、みなが移転先に引っ越し、「田口の大イチョウ」と呼ばれた御神木と共同墓地と尾方さん夫妻だけになりました。工事が中止になった今も、土地に根を張って生きる尾方夫妻の姿を追った写真絵本です。 作／大西暢夫 1,400円(アリス館)
『エドワードとうま』 マンションの21階に住むエドワードがいちばんほしいのは馬です。毎晩馬の夢を見、昼間は馬になりきって遊んでいるので、下の階の人に叱られるほどです。あるとき、消防士のマイクが白くて大きなスミティという馬がいることを教えてくれました。 文／アン・ランド 絵／オーレ・エクセル 訳／谷川俊太郎 1,400円(岩波書店)	『にんじんのにんにん』 あったかい土の中で、ぐっすり眠っていたにんにん。春が来て目を覚ますと、にんにん忍法を始めました。ぐんぐんどんどのびるの術で、芽を出し、成長し、花が咲きました。そして、「一粒万倍分身の術」で、畑はにんにんでいっぱいです。 作／ふるやかおる 1,400円(アリス館)
『長崎ものがたり お船が出る日』 450年前の日本が舞台です。長崎の船大工のもとで働くふたりの少年、海太郎と森之助はそれぞれの祖父と父から伝え聞いた異国を自分の目で見たいと願っていました。難破船を大修理し、異国との交易の夢をのせて船乗り見習いの出航です。 文・絵／小林 豊 1,600円(岩波書店)	『えほんからとびだしたオオカミ』 絵本に登場するオオカミは、みんなから恐れられています。ある日絵本から転がり落ちてきたオオカミは、ちょっと様子が違うようです。ふとちょっネコに追い回されて、絵本の中へ飛び込みますが、そこから、追いだされてしまいました。 作／ティエリー・ロブレヒト 絵／グレゴワール・マビール 訳／石津ちひろ 1,300円(岩崎書店)
『いっすんこじろう 妖怪キリナシ退治の巻』 キリナシという得体の知れない敵を探し、今日も旅するたまきちといっすんこじろう。虫という虫を吸い込もうと大口開けた大ガエルに立ち向かいます。大ガエルを操るキリナシを無事退治して虫たちを救うことができるでしょうか。 文／内田麟太郎 絵／加藤休ミ 1,500円(WAVE出版)	『ハロウィーンの星めぐり 「夜に飛ぶものたち」』 ハロウィーンの夜、子どもたちがトリック・オア・トリートに出かける時間になりました。陽気なはずら好きな魔女たちは、ほうきに乘着って星座めぐりを楽しんでいます。「幼心の詩人」と称されるデ・ラ・メアの詩をもとにした絵本です。 詩／ウォルター・デ・ラ・メア 絵／カロリーナ・ラベイ 訳／海後礼子 1,400円(岩崎書店)
『あと、いくつ?』 くるみちゃんは、カレンダーをじっと見えています。おばあちゃんのおうちへ行く日を楽しみにしているのです。ひとつ、ふたつ、みつつ。あと何日? まだかな、まだかな。おばあちゃんへのおみやげは何にしましょうか。 作／ひろかわさえこ 1,400円(アリス館)	『かごにのって』 うらちちゃんが野原で大きなかごを見つけました。乗ってみるとお船のようで、子グマさん、イヌさんと次々に乗ってきます。「戸かごにのっておさんぽ おさんぽたのしいな!」と歌っているとグラッとかがが動きました。 作／とよたかずひこ 1,300円(アリス館)

もう読んだ?

新刊100!!

2015年9月11日に発売された新刊絵本の中から、読みかきせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの応募はアンケート用紙、またはウェブから。

※出版社五十音順

マークは乳幼児から、は中・高校生も楽しめる本です。